

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
姫路医療専門学校		平成30年3月26日		向原 伸彦		〒 670-0927 (住所) 兵庫県姫路市駅前町27番2 (電話) 079-226-8115		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人神戸滋慶学園		平成4年1月9日		理事長 田仲 豊徳		〒 650-0001 (住所) 兵庫県神戸市中央区加納町2丁目5番1号 (電話) 078-221-8026		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
医療	医療専門課程		臨床工学技士科		令和 2(2020)年度	-	令和 3(2021)年度	
学科の目的	本校では、現在と将来の臨床現場で活きる確かな技術と知識を習得し、チーム医療の一員として最先端の高度医療から地域医療を担うことのできる豊かな社会性と人間力を身につけ、医療業界の発展に寄与できる人材を輩出することで社会貢献することを目指としています。臨床工学技士は、救急救命の現場から在宅医療まで幅広い領域で業務を担います。医師の指示に従って医療機器を操作することが基本になりますが、現在の医療現場では積極的に患者さんの状態を把握し、他職種と連携しながら医療機器の安全で効果的な使い方を提案していく能力も必要とされています。また、他職種だけでなく患者さんと関わる場面も多いことから、高いコミュニケーション能力も必須となります。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率 等)	臨床工学技士の国家試験に合格する基礎学力を身につけ、日々進歩し変化しつづける臨床現場に臨機応変に対応できる柔軟な思考と専門的知識を身につけます。また、社会人として周囲のスタッフと協力し良好な関係を築けるコミュニケーション能力と姿勢を身につけます。取得可能な資格:臨床工学技士							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	3,180 単位時間	1,710 単位時間	765 単位時間	705 単位時間	- 単位時間	- 単位時間
			- 単位	- 単位	- 単位	- 単位	- 単位	- 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
120 人	77 人		0 人		0 %	6 %		
就職等の状況	■卒業者数(C) : 32 人							
	■就職希望者数(D) : 29 人							
	■就職者数(E) : 24 人							
	■地元就職者数(F) 14 人							
	■就職率(E/D) 83 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) 58 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) 75 %							
	■進学者数 0 人							
	■その他							
	-							
第三者による学校評価	(令和 6 年度卒業者にに関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)							
	■主な就職先、業界等							
	(令和6年度卒業生) 総合病院、大学病院、医療センター、診療所等							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無							
	※有の場合、例えば以下について任意記載							
	評価団体: -		受審年月: -		評価結果を掲載したホームページURL -			
当該学科のホームページURL	https://www.hmc.ac.jp/gakka/ce							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数				3,180 単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				210 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				- 単位時間			
	うち必修授業時数				3,180 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				210 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				- 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				- 単位時間			
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数				- 単位			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				- 単位				
うち企業等と連携した演習の単位数				- 単位				
うち必修単位数				- 単位				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				- 単位				
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				- 単位				
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				- 単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				2 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				- 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				3 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				- 人			
	計				6 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				6 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
学科の養成目的(養成する職業人の将来像、必要となる知識・技術)の設定、教育目標(学生が卒業時に身につけておくべき能力)の到達のために、教育編成委員会での意見を活かし、カリキュラムを見直す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
本校の教育編成委員会は理事会のもとに設置しており、委員長は、委員会で出された意見を集約し理事会に報告している。カリキュラム変更等は、評議員会、理事会で決議し教育内容に反映している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年6月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
浅沼 由紀	一般社団法人兵庫県作業療法士会 理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
巢守 悟	医療法人リプロダクションクリニック リプロダクションクリニック大阪	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
西本 寛	公立神崎総合病院 ケアステーション神崎 所長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
服巻 陽子	一般社団法人兵庫県言語聴覚士会 副会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
藤本 英宏	医療法人社団栄宏会 栄宏会小野病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
杉田 由美	学校法人兵庫医科大学 兵庫医科大学ささやま医療センター	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
正木 昭次	一般社団法人兵庫県臨床工学技士会 参与	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
三井 友成	姫路赤十字病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
重松 武史	医療法人社団平生会 宮本クリニック	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
斎藤 満智子	学校法人神戸滋慶学園 常務理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
向原 伸彦	姫路医療専門学校 校長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
今在家 信司	姫路医療専門学校 教務部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
笠原 由美子	姫路医療専門学校 事務部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
今岡 康人	姫路医療専門学校 言語聴覚士科 部門長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
竹内 美保	姫路医療専門学校 作業療法士科 副学科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
帯包 静香	姫路医療専門学校 言語聴覚士科 副学科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
三村 佳祐	姫路医療専門学校 臨床工学技士科 副学科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (6月、2月)

(開催日時(実績))
第1回 令和6年6月27日 17:00 ～ 18:30
第2回 令和7年2月1日 15:00 ～ 16:30
第1回 令和7年6月16日 17:00 ～ 18:30

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 学園の定める教員研修規定において教員の授業内容、教育技法の改善並びにクラス運営の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的に定めている。また、教員の専門知識、技術力の向上のために、個々の教育経験、在職期間等を考慮し、それぞれの対象に応じた到達目標、研修方法並びに評価指標を定めて教員の研修計画を策定し、専門の学会や業界の研修会に積極的に参加している。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	西神戸医療センターオープンカンファレンス	連携企業等: 神戸市民病院機構
期間:	令和6年2月22日	対象: 教員
内容	人間力、社会人力向上に向けた取り組み	
研修名:	第51回日本集中治療医学会学術集会	連携企業等: 日本集中治療医学会
期間:	令和6年3月15日～16日	対象: 教員
内容	学術集会(集中治療)	
研修名:	235thふるいちセミナーin宮古島	連携企業等: 沖縄呼吸療法士ネットワーク
期間:	令和6年6月29日	対象: 教員
内容	呼吸療法について	
研修名:	第42回体外循環技術医学会近畿地方会	連携企業等: 日本体外循環技術医学会
期間:	令和6年6月29日～30日	対象: 教員
内容	学術集会(体外循環)	
研修名:	日本集中治療医学会関西支部会	連携企業等: 日本集中治療医学会
期間:	令和6年7月6日	対象: 教員
内容	学術集会(集中治療)	
研修名:	兵庫県臨床工学技士会呼吸部門セミナー	連携企業等: 兵庫県臨床工学技士会
期間:	令和6年7月28日	対象: 教員
内容	第46回呼吸セミナー初級編	
研修名:	兵庫県臨床工学技士会代謝部門セミナー	連携企業等: 兵庫県臨床工学技士会
期間:	令和6年8月4日	対象: 教員
内容	第35回血液浄化セミナー中級編	
研修名:	モニタリング技術研究会	連携企業等: 兵庫県臨床工学技士会
期間:	令和6年8月18日	対象: 教員
内容	透析中のモニタリングの有用性・活用方法について	
研修名:	兵庫県臨床工学技士会 ME部門オープンカンファレンス	連携企業等: 兵庫県臨床工学技士会
期間:	令和6年8月30日	対象: 教員
内容	IoTを活用した業務効率化を目指して	
研修名:	第47回 兵庫県透析従事者研究会	連携企業等: 兵庫県透析従事者研究会
期間:	令和6年10月13日	対象: 教員
内容	透析医療における最新のトピックスを学んだ。また、自身も研究発表を行った。	
研修名:	兵庫県臨床工学技士会手術部門定期学習会	連携企業等: 兵庫県臨床工学技士会
期間:	令和6年11月16日	対象: 教員
内容	第64回定期学習会 手術室における災害対策	
研修名:	第30回近畿臨床工学会	連携企業等: 近畿臨床工学会
期間:	令和6年11月23日、24日	対象: 教員
内容	学術集会	
研修名:	第52回日本集中治療医学会学術集会	連携企業等: 日本集中治療医学会
期間:	令和7年3月14日～16日	対象: 教員
内容	学術集会(集中治療)	

②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名：	マネジメント基礎研修	連携企業等：滋慶教育科学研究所
期間：	令和6年5月22日、23日	対象：教職員
内容	①マネジメントの基本知識を体系的に理解する ②メンバーを生かしながら、自組織の目指す姿を達成するための打ち手を立案し、実践する	
研修名：	FDマイクロレベル＜クラスマネジメント＞研修Ⅰ	連携企業等：滋慶教育科学研究所
期間：	令和6年5月23日	対象：教員
内容	担任の「クラスマネジメント」の定義に共感し、クラスマネジメントのポイントを理解し、「実行計画」の作成、修正ができるようになる	
研修名：	FDマイクロレベル＜スタート＞研修Ⅱ	連携企業等：滋慶教育科学研究所
期間：	令和6年6月6日	対象：教員
内容	①FDマイクロレベル＜スタート＞研修Ⅰ受講後の実際の授業の振り返りを行い、授業改善の工夫ができる ②クラスの成長を促すコーチングの基礎を学び、実践することができる	
研修名：	キャリアサポートアンケート勉強会(ビギナー研修)	連携企業等：滋慶教育科学研究所
期間：	令和7年7月3日	対象：教員
内容	学生の傾向と問題状況の取り組み方、学生指導への活用方法を学ぶ	
研修名：	FDマイクロレベル＜クラスマネジメント＞研修Ⅱ	連携企業等：滋慶科学研究所
期間：	令和6年7月24日	対象：教員
内容	クラスマネジメントのポイントを理解し、「クラス」をひとりで支えることなく、学生のセイフティーネットの運用のため「実行計画」作成、実践、修正ができるようになる	
研修名：	国家試験対策研修会	連携企業等：滋慶教育科学研究所
期間：	令和6年8月16日	対象：教員
内容	国家試験の合格率向上に繋がる情報やスキルを共有する	
研修名：	第10回臨床工学技士養成教員学術研究会	連携企業等：日本臨床工学技士教育施設協議会
期間：	令和6年9月28日	対象：教員
内容	新カリキュラムに対応するシン学生教育への備え	
研修名：	2024年度ハラスメント研修	連携企業等：滋慶教育科学研究所
期間：	令和6年11月8日	対象：教職員
内容	ハラスメントが起きる原因や背景、問題の構造を理解し、ハラスメント予防と初期対応の習得	
研修名：	FDマイクロレベル＜スタート＞研修Ⅰ	連携企業等：滋慶教育科学研究所
期間：	令和7年 3月26日（水）	対象：教員
内容	教員として、授業での教授法や進め方・学生の心理などの基本を学んだ。	
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名：	第48回 兵庫県透析従事者研究会	連携企業等：兵庫県透析従事者研究会
期間：	令和7年10月26日	対象：教員
内容	自身の研究発表を含め、透析医療の最前線について学ぶ予定。	
研修名：	第7回アジア臨床工学フォーラム	連携企業等：大阪滋慶学園
期間：	令和7年11月1日	対象：教員
内容	学術集会(当科学生発表予定)	
研修名：	第52回日本集中治療医学会学術集会	連携企業等：日本集中治療医学会
期間：	令和8年3月5日～7日	対象：教員
内容	学術集会(集中治療)	
研修名：	第10回関西支部学術集会	連携企業等：日本集中治療医学会
期間：	令和8年6月20日	対象：教員
内容	未定	
研修名：	第44回体外循環技術医学会近畿地方会	連携企業等：日本体外循環技術医学会
期間：	令和8年6月26日、27日	対象：教員
内容	学術集会(体外循環)	
研修名：	第31回近畿臨床工学会	連携企業等：近畿臨床工学会
期間：	令和8年11月17日、18日	対象：教員
内容	学術集会(臨床工学)	

②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	教職員カウンセリング研修<1次>	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	令和7年9月19日	対象:	教職員
内容	カウンセリングマインドを身に付けて、学生及び保護者に対応できるスキルを学ぶ予定。		
研修名:	2025年度公開授業	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	令和7年11月12日	対象:	教職員
内容	「授業力」を高めるための気づきを共有し、よりよい授業を実施できるよう相互に成長する。		
研修名:	2025年度滋慶教育科学学会	連携企業等:	滋慶教育科学研究所
期間:	令和7年12月5日	対象:	教職員
内容	グループ校による、教育効果をもたらした研究内容の発表会、事例の共有		
(別途、以下の資料を提出)			
* 研修等に係る諸規程			
* 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)			
* 研修等の計画(推薦年度における計画)			
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1)学校関係者評価の基本方針 卒業生・保護者代表、近隣関係者、高校関係者、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校教職員が行った自己評価・自己採点の内容を審議・評価することを通し、学校運営の改善に生かすことを方針としている。			
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目		学校が設定する評価項目	
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標		
(2)学校運営	(2)学校運営		
(3)教育活動	(3)教育活動		
(4)学修成果	(4)学修成果		
(5)学生支援	(5)学生支援		
(6)教育環境	(6)教育環境		
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集		
(8)財務	(8)財務		
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守		
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献		
(11)国際交流	-		
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3)学校関係者評価結果の活用状況 学生の態度、姿勢など社会人基礎力や医療人としてのキャリア教育プログラムの成果や、国家試験合格のためのサポートの改善結果をご評価いただいた。3期目の卒業生が就職するにあたり、今後卒業生と連携した教育プログラムなどのご意見をいただき、実際に計画、運用を始めている。			
(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿			
名 前	所 属	任期	種別
大塚 将史	医療法人芙蓉会 姫路愛和病院	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
栗岡 容子	作業療法士科1年生 保護者	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	保護者
瀬戸川 孝	兵庫県立松陽高等学校 元校長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	高校関係者
田中 種男	姫路市城巽地区 顧問	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	近隣関係者
浅沼 由紀	一般社団法人兵庫県作業療法士会 理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	業界関係者
正木 昭次	一般社団法人兵庫県臨床工学技士会 参与	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	業界関係者
服巻 陽子	一般社団法人兵庫県言語聴覚士会 副会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	業界関係者
※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等			
(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期			
(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())			
URL:	https://www.hmc.ac.jp/about/joho		
公表時期:	令和7年6月30日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年作成している事業計画の実行方針では目標(カリキュラムの検証、中途退学防止、国家試験合格、卒業後の離職防止等)を具現化するため、学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の委員の方からの意見をもとに、実行計画を作成している。企業等への具体的な情報提供方法としては、委員会での報告、ホームページを通じて、教育活動その他学校運営に関する情報提供を行っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	建学の理念、校長名、所在地、連絡先、教育目標、学校の沿革
(2)各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数、教科目標、教科課程、各学科のシラバス、進級・卒業の要件、資格・検定実績、卒業者数・卒業後の進路
(3)教職員	教職員数、組織図
(4)キャリア教育・実践的職業教育	教育システム、実習・実技等の取組、就職支援の取組
(5)様々な教育活動・教育環境	学年歴、学校行事の取組状況、設備紹介
(6)学生の生活支援	学生支援の取組
(7)学生納付金・修学支援	学費、学費サポート
(8)学校の財務	資金収支計算書、事業活動収支計算書、財産目録、貸借対照表、監査報告書、事業報告書、理事名簿
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果、学校関係者評価委員会議事録
(10)国際連携の状況	-
(11)その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://www.hmc.ac.jp/about/joho>

公表時期: 令和7年6月30日

授業科目等の概要

(医療専門課程 臨床工学技士科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			生物学	解剖学の基本となる生命科学の基本原則を学び、ヒトの成り立ちから最新の生物学的知見までを理解し自らの言葉で説明できる。	1前	30	1	○			○			○	
2	○			化学	医学を学ぶにあたり必要な基礎知識として、無機化学、有機化学など化学の基礎知識を理解できる。	1前	60	2	○	△		○			○	
3	○			物理学	自然科学の基礎となる物理法則を学び、流体・熱・電磁気・光・波などの力学的知識を身につける。	1通	60	2	○	△		○		○		
4	○			基礎数学	電気工学・電子工学・計測学・統計学を学ぶうえで必要となる数学の基礎知識を活用できる。	1前	30	1	○	△		○			○	
5	○			コミュニケーション	臨床工学技士としてだけでなく、医療人・社会人として他者と円滑な人間関係を築くコミュニケーション技術を身につける。	1通	30	2	○	△		○		○		
6	○			文章表現・読解	文章を読み理解する力を身につけると共に、語彙力を伸ばし、自身の考えや想いを整理し表現できる。	1通	30	1		○		○		○		
7	○			健康科学	社会人として必要な基礎体力を養うとともに、心身共に健康な状態とは何かを説明できる。	2通	30	1	○			○			○	
8	○			基礎英語Ⅰ	日常英会話を中心に学び、英語を用いたコミュニケーションができる。	1前	30	1	○	△		○			○	
9	○			基礎英語Ⅱ	科学英語や工業英語を中心に学び、医療機器に用いられるメッセージを適切に読み取れる力を身につける。	1後	30	1	○	△		○			○	
10	○			医学英語	医学用語、略語、病歴診察所見などの専門的医学英語と簡単な英文を読み解くことができる。	2前	30	2	○	△		○			○	
11	○			人の構造及び機能Ⅰ	医療スタッフにとって共通知識である、正常な人体の解剖と機能を学び、病態を理解するための基本知識を説明できる。	1前	60	2	○	△		○			○	
12	○			人の構造及び機能Ⅱ	各器官(消化器系・神経系・運動器系・感覚器等)の位置関係、役割、関連性を説明できる。	1後	30	1	○	△		○			○	
13	○			公衆衛生学	健康の維持増進、疾病の予防と公的な社会福祉、保健行政等の仕組みを説明できる。	1前	15	1	○			○		○		
14	○			病理学	病気の原因、症状、疾病の成り立ちを学び、診断治療の基礎となる知識を身につける。	1後	30	1	○	△		○			○	
15	○			基礎医学実習	化学や生化学、人の構造及び機能等で学んだ基礎医学の知識を、実技を通して説明できる。	1後	45	1			○	○		○		

16	○		医学概論	医学の歴史、医療技術の進歩、生命倫理等を学び、医療従事者として相応しい心構えを身につける。	1 前	15	1	○			○			○	
17	○		臨床生理学	正常な身体の生理機能と疾病時の変化、関連および検査法などについて説明できる。	2 前	30	1	○	△		○			○	
18	○		臨床生化学	細胞内の化学変化を分子レベルで理解し、病気の予防・診断・治療につながる詳細を説明できる。	1 後	60	2	○	△		○			○	
19	○		臨床免疫学	免疫系の概要と仕組み、および各種アレルギー反応、微生物についての基礎知識を習得する。	2 前	30	1	○	△		○			○	
20	○		臨床薬理学	薬の分類、構造や作用機序と副作用、各器官ごとに使用される薬剤について理解できる。	2 後	30	1	○	△		○			○	
21	○		関係法規	医療関連法規、臨床工学技士法、医療機器・機材に関する法制度を説明できる。	3 前	15	1	○			○		○		
22	○		チーム医療論	医療機関におけるチームのあり方と概念を学び、医療専門職としての自覚とチームの一員として相応しい姿勢を身につける。	1 前	15	1	○	△		○		○		
23	○		電磁気学	生体の電気現象を正しく捉えるために電界と磁界の関係、磁場と電流など、検査や治療に用いられる様々な電磁気現象の基礎について説明できる。	1 前	30	1	○	△		○			○	
24	○		電気工学	オームの法則や直流・交流回路などの基本的電気工学の知識を学び、抵抗やコンデンサの働き、相互作用におけるフィルタ回路などを理解できる。	1 前	60	2	○	△		○			○	
25	○		電気工学演習	電気工学の講義で学んだことを医療機器に関連する事柄を通して説明できる。	1 後	30	1		○		○			○	
26	○		電気工学実習	様々な素子を組み合わせた電気回路などの電気特性を実習を通して学び、基礎知識の整理と応用力を身につける。	1 前	60	2			○	○			○	
27	○		電子工学Ⅰ	電子物性の基礎を学び、半導体等の電子素子の特性および素子を組み合わせた際の信号への影響等を説明できる。	1 後	60	2	○	△		○			○	
28	○		電子工学Ⅱ	電子工学の基礎、アナログ／デジタル変換、増幅回路、信号処理等システムを構成する技術について説明できる。	2 前	30	1	○	△		○			○	
29	○		電子工学実習	電子回路や各種素子に関連する基本的な知識の整理と応用力を実習を通して身につける。	1 後	60	2			○	○			○	
30	○		機械工学Ⅰ	機械を構成する各要素の構造や特徴、力学的性質などの機械工学の基礎を身につける。	3 前	30	1	○	△		○			○	
31	○		機械工学Ⅱ	機械、音、振動、熱等を用いた機械工学的特性と物理的知識を関連づけ、説明できる。	3 後	30	1	○	△		○			○	
32	○		応用数学	ベクトルや行列等の線型代数や微積分等、卒業後も臨床工学技士として活躍していくために必要な数学の知識を身につける。	1 後	30	1	○	△		○			○	
33	○		医療統計学	研究や開発等で必要となる、データの収集・整理、確率・検定等の統計処理の基本や考え方を身につける。	3 前	30	1	○	△		○			○	

34	○		臨床工学演習Ⅰ	臨床工学技士に必要な理工学的知識の復習を行い、医学と関連づけながら説明できる。	3後	30	1		○		○		○		
35	○		コンピュータ演習	コンピュータに関する基本的知識の整理と、wordやexcel、powerpoint等のパソコンスキルを身につける。	1通	60	2		○		○			○	
36	○		システム・情報処理工学Ⅰ	コンピュータの原理、デジタル処理の基本的な考え方を説明できる。	1前	30	2	○	△		○			○	
37	○		システム・情報処理工学Ⅱ	コンピュータの詳細と医療技術への活用、情報処理技術とセキュリティ技術等の応用技術について説明できる。	2前	30	2	○	△		○			○	
38	○		システム・情報処理工学実習	情報処理工学、システム工学の基礎と概念を学び、実践できる。	2後	30	1			○	○			○	
39	○		システム制御工学	システム理論や伝達関数など制御技術の基礎を身につけ、A Iなどの最新の制御技術等について理解できる。	3後	30	2	○	△		○			○	
40	○		医用工学概論	臨床工学技士として医用工学技術がどの分野でどのように活用されているか総合的に説明できる。	2後	30	1	○	△		○		○		
41	○		生体物性工学	生体組織、細胞における様々な現象や反応を理工学的視点から捉え、物理学知識とともに説明できる。	2通	60	2	○	△		○		○		
42	○		医療材料工学	医療現場で用いられる人工材料の特性と、人体に使用した際の生体反応や生体適合性について説明できる。	2前	30	1	○	△		○			○	
43	○		計測工学	計測技術の基礎・原理を中心に学び、生体計測のための基礎知識を身につける。	3前	30	1	○	△		○			○	
44	○		放射線工学概論	放射線の概要と放射線による生体作用、検査や治療に用いられる放射線の応用技術と安全管理について説明できる。	3通	30	2	○			○			○	
45	○		医用機器学概論	医用機器の定義や身近に存在する機器と医用機器の違い、医用機器の様々な役割について説明できる。	2後	30	1	○			○		○		
46	○		医用治療機器学Ⅰ	電氣的治療機器、機械的治療機器、手術用機器の原理・用途などの概要および保守管理等について説明できる。	3通	30	1	○	△		○			○	
47	○		医用治療機器学Ⅱ	電氣的治療機器、機械的治療機器、手術用機器の原理・用途、適応疾患、他分野への応用、生体への影響、保守管理等について説明できる。	3前	30	1	○	△		○		○		
48	○		医用治療機器学実習	電氣的治療機器、機械的治療機器、手術用機器、その他の機器について、操作方法や保守管理技術を中心に学び実践できる。	3通	60	2			○	○			○	
49	○		生体計測装置学（Ⅰ）	生体信号を計測することの臨床的意義と基本原理・計測機器の特徴について説明できる。	2前	30	1	○	△		○			○	
50	○		生体計測装置学（Ⅱ）	生体モニタリング技術を学び、関連する医療機器を適切に使用するための知識を説明できる。	3前	30	1	○	△		○			○	
51	○		生体計測装置学実習	実際の計測機器を用いて座学で学んだ知識を整理しつつ、操作できる。	2後	45	1			○	○			○	

52	○		生体機能代行装置学概論	医療機器全般に関する概要および医療従事者・実習生として相応しい態度、医療機関に出入りする者として必要な心構えを身につける。	1通	15	1	○	△		○		○		
53	○		生体機能代行装置学Ⅰ（呼吸）	呼吸の基礎、呼吸に関連する疾患、呼吸療法に使用される機器、物品について種類・原理等を学び、適切な取扱いと保守管理方法を説明できる。	2通	60	2	○	△		○			○	
54	○		生体機能代行装置学実習Ⅰ（呼吸）	呼吸療法に使用される機器と周辺機器について適切な操作方法や選択基準・保守管理技術を実践できる。	2後	30	1			○	○		○		
55	○		生体機能代行装置学Ⅱ（循環）	循環器の基礎と関連する病態、循環器領域で使用される機器や物品について原理や特徴を学び、適切な取扱いと保守管理方法を説明できる。	2通	60	2	○	△		○			○	
56	○		生体機能代行装置学実習Ⅱ（循環）	循環器系医療機器の特徴や操作方法を実習を通して学び、適切な取扱いと安全な保守管理技術を実践できる。	2後	30	1			○	○		○		
57	○		生体機能代行装置学Ⅲ（代謝）	代謝の基礎と関連する病態・疾患、血液浄化領域で使用される機器や物品の原理や特徴を学び、適切な取扱いと保守管理方法を説明できる。	2通	60	2	○	△		○			○	
58	○		生体機能代行装置学実習Ⅲ（代謝）	血液浄化療法に用いられる機器本体だけでなく、幅広い周辺機器の原理と特徴を実習を通して理解を深め、適切な取扱いと安全な保守管理技術を実践できる。	2後	30	1			○	○			○	
59	○		臨床工学演習Ⅱ	人体を臓器毎ではなく、一つの有機体として捉え、個々の専門分野で学んだ知識を関連付けて説明できる。	3通	60	2		○		○		○		
60	○		人間工学	人体の生理、反応、身体的な特徴や心理学的な影響など様々な視点から自己分析や事故分析を行い、安全なシステムについて説明できる。	2後	30	1	○	△		○		○		
61	○		医療マネジメント概論	組織や個人・業務の管理だけでなく、安全やリスクに関する概念や管理方法等について幅広く学び、個と組織に対するマネジメントスキルを身につける。	3後	15	1	○			○			○	
62	○		医用機器安全管理学Ⅰ	安全という概念の理解と機器・施設の安全性と限界、医療機器および医療機関の安全設備について説明できる。	2通	30	1	○	△		○			○	
63	○		医用機器安全管理学Ⅱ	医療機器毎の特徴に沿った安全性の管理と故障状態の理解、保守管理技術、人体に及ぼす影響について説明できる。	3通	30	1	○	△		○			○	
64	○		医用機器安全管理学実習	医療機器のメンテナンス方法と電気的安全性等を様々な測定器を用いて計測し、実習を通して知識と技術を実践できる。	2通	30	1			○	○	○		○	
65	○		臨床医学総論Ⅰ	臨床工学技士に必要な臨床医学知識（内科系疾患）について原因、病態と症状、治療方法を説明できる。	2前	60	2	○			○		○		
66	○		臨床医学総論Ⅱ	臨床工学技士に必要な臨床医学知識（外科系疾患）について原因、病態と症状、治療方法等を説明できる。	2後	60	2	○			○		○		
67	○		臨床医学総論Ⅲ	臨床工学技士に必要な臨床医学知識（脳・神経系疾患、遺伝性疾患、感染症等）について原因、病態と症状、治療方法等を説明できる。	3通	60	2	○			○		○		
68	○		臨床実習	臨床工学技士の役割と業務内容、患者や他職種との関わりを臨床現場で学び、実践力を身につける。	3通	180	4			○	○	○	○	○	○
69	○		見学実習	医療職としての自覚と自立を促し、臨床工学技士が医療機関の中でどの様な役割を担っているか説明できる。	1通	45	1			○	○	○	○	○	

70	○		プロフェッショナルへの道Ⅰ	臨床工学技士を目指す学生として必要な心構えやチームワーク、コミュニケーション能力を身につける。	1通	30	1	○	△		○	○		
71	○		プロフェッショナルへの道Ⅱ	社会人として必要な社会人基礎力を中心に学び、適切な自己管理能力と周囲と適切な関係性を築けるスキルを身につける。	2通	30	1	○	△		○	○		
72	○		プロフェッショナルへの道Ⅲ	医療人として必要なモラルや生命倫理観を養い、患者や関連スタッフと協働連携して働くことの出来る人間力を身につける。	3通	30	1	○	△		○	○		
73	○		国家試験演習Ⅰ	国家試験に必要な専門基礎科目の知識を整理し、模擬問題を通して国家資格取得に必須となる基礎学力を身につける。	3前	15	1		○		○	○		
74	○		国家試験演習Ⅱ	模擬問題を反復練習することで、国家資格取得に必要な専門科目に対応する力を身につける。	3後	30	1		○		○	○		
75	○		臨床工学特論Ⅰ	基礎科目で学んだ知識を復習し、知識と体験を結びつける思考力を獲得し、基礎力と応用力を身につける。	3後	60	2		○		○	○		
76	○		臨床工学特論Ⅱ	専門基礎科目で学んだ知識を演習や実習とともに振り返り、実践的な知識として活用できる。	3後	60	2		○		○	○		
77	○		臨床工学特論Ⅲ	臨床工学技士として必要な全ての領域を復習し、医療人として活躍するための実践的な知識と技術を身につける。	3通	60	2		○		○	○		
78	○		国際教育	日本と海外の医療情勢や文化・民族性などの相違点を学ぶことで、日本人としてのIdentityの確立と国際的な幅広い視野・思考を身につける。	2後	15	1	○	△		○	○		
79	○		ME2種講座	電気工学、電子工学で学んだ知識を整理しつつ過去問題に取り組むことで、電気工学分野の復習だけでなく、医学と工学とを関連づけた知識として身につける。	2前	30	2	○	△		○	○		
合計				79 科目			3075 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 本校所定の課程を修了し、出席日数をみだし、試験に合格すること。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 当該年度の科目を全て履修していなければならない。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

	(医療専門課程 臨床工学技士科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			生物学	解剖学の基本となる生命科学の基本原理を学び、ヒトの成り立ちから最新の生物学的知見までを理解し自らの言葉で説明できる。	1前	30	1	○			○			○		
2	○			化学	医学を学ぶにあたり必要な基礎知識として、無機化学、有機化学など化学の基礎知識を理解できる。	1通	60	2	○			○				○	
3	○			物理学	自然科学の基礎となる物理法則を学び、流体・熱・電磁気・光・波などの力学的知識を身につける。	1通	60	2	○			○			○		
4	○			基礎数学	電気工学・電子工学・計測学・統計学を学ぶうえで必要となる数学の基礎知識を活用できる。	1前	30	1	○			○				○	
5	○			文章表現・読解	文章を読み理解する力を身につけると共に、語彙力を伸ばし、自身の考えや想いを整理し表現できる。	1前	15	1		○		○			○		
6	○			健康科学	社会人として必要な基礎体力を養うとともに、心身共に健康な状態とは何かを説明できる。	1通	30	1		○			○			○	
7	○			基礎英語Ⅰ	日常英会話を中心に学び、英語を用いたコミュニケーションができる。	1前	30	1	○			○				○	
8	○			基礎英語Ⅱ	科学英語や工業英語を中心に学び、医療機器に用いられるメッセージを適切に読み取れる力を身につける。	1後	30	1	○			○				○	
9	○			医学英語	医学用語、略語、病歴診察所見などの専門的医学英語と簡単な英文を読み解くことができる。	2前	30	2	○			○				○	
10	○			コミュニケーション	臨床工学技士としてだけでなく、医療人・社会人として他者と円滑な人間関係を築くコミュニケーション技術を身につける。	1通	30	2		○		○			○		
11	○			人の構造及び機能Ⅰ	医療スタッフにとって共通知識である、正常な人体の解剖と機能を学び、病態を理解するための基本知識を説明できる。	1前	60	2	○			○				○	
12	○			人の構造及び機能Ⅱ	各器官(消化器系・神経系・運動器系・感覚器等)の位置関係、役割、関連性を説明できる。	1後	30	1	○			○				○	
13	○			生化学Ⅰ	無機化学、有機化学、生物化学、化学工学等の化学的な考察方法が説明できる。	1前	30	1	○			○				○	
14	○			臨床生理学	正常な身体の生理機能と疾病時の変化、関連および検査法などについて説明できる。	2前	30	1	○			○				○	
15	○			基礎医学実習	化学や生化学、人の構造及び機能等で学んだ基礎医学の知識を、実技を通して説明できる。	1後	45	1			○	○			○		

16	○		医学概論	医学の歴史、医療技術の進歩、生命倫理等を学び、医療従事者として相応しい心構えを身につける。	1通	15	1		○		○			○	
17	○		生化学Ⅱ	細胞内の化学変化を分子レベルで理解し、病気の予防・診断・治療につながる詳細を説明できる。	1後	30	1	○			○			○	
18	○		臨床免疫学	免疫系の概要と仕組み、および各種アレルギー反応、微生物についての基礎知識を習得する。	2後	30	1	○			○			○	
19	○		臨床薬理学	薬の分類、構造や作用機序と副作用、各器官ごとに使用される薬剤について理解できる。	2前	30	1	○			○			○	
20	○		病理学	病気の原因、症状、疾病の成り立ちを学び、診断治療の基礎となる知識を身につける。	2前	30	1	○			○			○	
21	○		公衆衛生学	健康の維持増進、疾病の予防と公的な社会福祉、保健行政等の仕組みを説明できる。	1後	15	1	○			○		○		
22	○		関係法規Ⅰ	臨床工学技士として正しく職務を遂行するために必要な基礎となる法規について理解できる。	2後	15	1	○			○			○	
23	○		チーム医療概論	医療機関におけるチームのあり方と概念を学び、医療専門職としての自覚とチームの一員として相応しい姿勢を身につける。	1通	30	2		○		○		○		
24	○		電磁気学	生体の電気現象を正しく捉えるために電界と磁界の関係、磁場と電流など、検査や治療に用いられる様々な電磁気現象の基礎について説明できる。	1前	30	1	○			○			○	
25	○		電気工学	オームの法則や直流・交流回路などの基本的電気工学の知識を学び、抵抗やコンデンサの働き、相互作用におけるフィルタ回路などを理解できる。	1前	60	2	○			○			○	
26	○		電気工学演習	電気工学の講義で学んだことを医療機器に関連する事柄を通して説明できる。	1後	30	1		○		○			○	
27	○		電気工学実習	様々な素子を組み合わせた電気回路などの電気特性を実習を通して学び、基礎知識の整理と応用力を身につける。	1前	60	2			○	○			○	
28	○		電子工学Ⅰ	電子物性の基礎を学び、半導体等の電子素子の特性および素子を組み合わせた際の信号への影響等を説明できる。	1後	60	2	○			○			○	
29	○		電子工学Ⅱ	電子工学の基礎、アナログ／デジタル変換、増幅回路、信号処理等システムを構成する技術について説明できる。	2前	30	1	○			○			○	
30	○		電子工学実習	電子回路や各種素子に関連する基本的な知識の整理と応用力を実習を通して身につける。	1後	60	2			○	○			○	
31	○		機械工学Ⅰ	機械を構成する各要素の構造や特徴、力学的性質などの機械工学の基礎を身につける。	2後	30	1	○			○		○		
32	○		機械工学Ⅱ	機械、音、振動、熱等を用いた機械工学的特性と物理的知識を関連づけ、説明できる。	3前	30	1	○			○			○	
33	○		応用数学	ベクトルや行列等の線型代数や微積分等、卒業後も臨床工学技士として活躍していくために必要な数学の知識を身につける。	1後	30	1	○			○			○	

34	○		計測工学	計測技術の基礎・原理を中心に学び、生体計測のための基礎知識を身につける。	1 後	30	1	○			○		○	
35	○		臨床工学演習 Ⅰ	臨床工学技士に必要な理工学的知識の復習を行い、医学と関連づけながら説明できる。	3 後	30	1		○		○		○	
36	○		コンピュータ 演習	コンピュータに関する基本的知識の整理と、wordやexcel、powerpoint等のパソコンスキルを身につける。	1 通	60	2		○		○		○	
37	○		システム・情報 処理工学Ⅰ	コンピュータの原理、デジタル処理の基本的な考え方を説明できる。	1 前	30	2	○			○		○	
38	○		システム・情報 処理工学Ⅱ	コンピュータの詳細と医療技術への活用、情報処理技術とセキュリティ技術等の応用技術について説明できる。	2 前	30	2	○			○		○	
39	○		システム・情報 処理工学実習	情報処理工学、システム工学の基礎と概念を学び、実践できる。	2 後	30	1			○	○		○	
40	○		システム制御 工学	システム理論や伝達関数など制御技術の基礎を身につけ、A Iなどの最新の制御技術等について理解できる。	3 後	30	1	○			○		○	
41	○		医療統計学	研究や開発等で必要となる、データの収集・整理、確率・検定等の統計処理の基本や考え方を身につける。	3 前	30	1		○		○		○	
42	○		医用工学概論	臨床工学技士として医用工学技術がどの分野でどのように活用されているか総合的に説明できる。	2 後	15	1		○		○		○	
43	○		生体物性工学	生体組織、細胞における様々な現象や反応を理工学的視点から捉え、物理学知識とともに説明できる。	2 通	60	2	○			○		○	
44	○		医療材料工学	医療現場で用いられる人工材料の特性と、人体に使用した際の生体反応や生体適合性について説明できる。	2 前	30	2	○			○		○	
45	○		放射線工学概 論	放射線の概要と放射線による生体作用、検査や治療に用いられる放射線の応用技術と安全管理について説明できる。	3 通	30	2	○			○		○	
46	○		医用機器学概 論	医用機器の定義や身近に存在する機器と医用機器の違い、医用機器の様々な役割について説明できる。	2 後	30	1		○		○		○	
47	○		医用治療機器 学Ⅰ	電氣的治療機器、機械的治療機器、手術用機器の原理・用途などの概要および保守管理等について説明できる。	2 前	30	1	○			○		○	
48	○		医用治療機器 学実習	電氣的治療機器、機械的治療機器、手術用機器、その他の機器について、操作方法や保守管理技術を中心に学び実践できる。	3 通	60	2			○	○		○	
49	○		生体計測装置 学Ⅰ	生体信号を計測することの臨床的意義と基本原理・計測機器の特徴について説明できる。	2 前	30	1	○			○		○	
50	○		生体計測装置 学実習	実際の計測機器を用いて座学で学んだ知識を整理しつつ、操作できる。	2 後	60	2			○	○		○	
51	○		臨床支援技術 学	医療機器を介した臨床支援が必要とされる症例の病態や治療の実践を学ぶ、	3 前	30	2	○			○		○	

52	○			臨床支援技術学実習	臨床支援が必要とされる内視鏡業務や心血管カテーテル業務などにおける機器の特徴や操作方法を実習を通して学び、適切な取り扱いと安全な保守管理技術を実践できる。	3通	30	1			○	○		○		
53	○			生体機能代行技術学概論	医療機器全般に関する概要および医療従事者・実習生として相応しい態度、医療機関に出入りする者として必要な心構えを身につける。	1通	15	1		○		○		○		
54	○			生体機能代行技術学Ⅰ（呼吸）	呼吸の基礎、呼吸に関連する疾患、呼吸療法に使用される機器、物品について種類・原理等を学び、適切な取扱いと保守管理方法を説明できる。	2通	60	2	○			○		○		
55	○			生体機能代行装置学実習Ⅰ（呼吸）	呼吸療法に使用される機器と周辺機器について適切な操作方法や選択基準・保守管理技術を実践できる。	2通	30	1			○	○		○		
56	○			生体機能代行技術学Ⅱ（循環）	循環器の基礎と関連する病態、循環器領域で使用される機器や物品について原理や特徴を学び、適切な取扱いと保守管理方法を説明できる。	2通	60	2	○			○			○	
57	○			生体機能代行技術学実習Ⅱ（循環）	循環器系医療機器の特徴や操作方法を実習を通して学び、適切な取扱いと安全な保守管理技術を実践できる。	2通	30	1			○	○		○		
58	○			生体機能代行技術学Ⅲ（代謝）	代謝の基礎と関連する病態・疾患、血液浄化領域で使用される機器や物品の原理や特徴を学び、適切な取扱いと保守管理方法を説明できる。	2通	60	2	○			○			○	
59	○			生体機能代行技術学実習Ⅲ（代謝）	血液浄化療法に用いられる機器本体だけでなく、幅広い周辺機器の原理と特徴を実習を通して理解を深め、適切な取扱いと安全な保守管理技術を実践できる。	2通	30	1			○	○			○	
60	○			臨床工学演習Ⅱ	人体を臓器毎ではなく、一つの有機体として捉え、個々の専門分野で学んだ知識を関連付けて説明できる。	3前	60	2		○		○		○		
61	○			人間工学	人体の生理、反応、身体的な特徴や心理学的な影響など様々な視点から自己分析や事故分析を行い、安全なシステムについて説明できる。	2後	30	1	○			○		○		
62	○			医療マネジメント概論	組織や個人・業務の管理だけでなく、安全やリスクに関する概念や管理方法等について幅広く学び、個と組織に対するマネジメントスキルを身につける。	3後	15	1		○		○			○	
63	○			医療機器安全管理学Ⅰ	安全という概念の理解と機器・施設の安全性と限界、医療機器および医療機関の安全設備について説明できる。	2通	30	1	○			○			○	
64	○			医療機器安全管理学Ⅱ	医療機器毎の特徴に沿った安全性の管理と故障状態の理解、保守管理技術、人体に及ぼす影響について説明できる。	3通	30	1	○			○			○	
65	○			医療機器安全管理学実習	医療機器のメンテナンス方法と電気的安全性等を様々な測定器を用いて計測し、実習を通して知識と技術を実践できる。	2通	30	1			○	○			○	
66	○			生体計測装置学Ⅱ	生体モニタリング技術を学び、関連する医療機器を適切に使用するための知識を説明できる。	3前	30	1	○			○			○	
67	○			関係法規Ⅱ	医療関連法規、臨床工学技士法、医療機器・機材に関する法制度を説明できる。	3前	15	1	○			○			○	
68	○			医用治療機器学Ⅱ	電氣的治療機器、機械的治療機器、手術用機器の原理・用途、適応疾患、他分野への応用、生体への影響、保守管理等について説明できる。	3通	30	1	○			○			○	
69	○			臨床医学総論Ⅰ	臨床工学技士に必要な臨床医学知識（内科系疾患）について原因、病態と症状、治療方法を説明できる。	2前	60	2	○			○			○	

70	○		臨床医学総論Ⅱ	臨床工学技士に必要な臨床医学知識（外科系疾患）について原因、病態と症状、治療方法等を説明できる。	2後	60	2	○			○		○		
71	○		臨床医学総論Ⅲ	臨床工学技士に必要な臨床医学知識（脳・神経系疾患、遺伝性疾患、感染症等）について原因、病態と症状、治療方法等を説明できる。	3通	75	3	○			○		○		
72	○		臨床実習Ⅰ	臨床工学技士の役割と業務内容、患者や他職種との関わりを臨床現場で学び、実践力を身につける。	2後	30	1			○	○	○	○	○	
73	○		臨床実習Ⅱ	臨床工学技士の役割と業務内容、患者や他職種との関わりを臨床現場で学び、実践力を身につける。	3通	180	6			○	○	○	○	○	
74	○		見学実習	医療職としての自覚と自立を促し、臨床工学技士が医療機関の中でどの様な役割を担っているか説明できる。	1通	30	1			○	○	○	○	○	○
75	○		プロフェッショナルへの道Ⅰ	臨床工学技士を目指す学生として必要な心構えやチームワーク、コミュニケーション能力を身につける。	1通	30	1	△	○		○		○		
76	○		プロフェッショナルへの道Ⅱ	社会人として必要な社会人基礎力を中心に学び、適切な自己管理能力と周囲と適切な関係性を築けるスキルを身につける。	2通	30	1	△	○		○		○		
77	○		プロフェッショナルへの道Ⅲ	医療人として必要なモラルや生命倫理観を養い、患者や関連スタッフと協働連携して働くことの出来る人間力を身につける。	3通	30	1	△	○		○		○		
78	○		国家試験演習Ⅰ	国家試験に必要な専門基礎科目の知識を整理し、模擬問題を通して国家資格取得に必須となる基礎学力を身につける。	3前	15	1		○		○		○		
79	○		国家試験演習Ⅱ	模擬問題を反復練習することで、国家資格取得に必要な専門科目に対応する力を身につける。	3後	30	1		○		○		○		
80	○		臨床工学特論Ⅰ	基礎科目で学んだ知識を復習し、知識と体験を結びつける思考力を獲得し、基礎力と応用力を身につける。	3後	60	2		○		○			○	
81	○		臨床工学特論Ⅱ	専門基礎科目で学んだ知識を演習や実習とともに振り返り、実践的な知識として活用できる。	3前	60	2		○		○		○		
82	○		臨床工学特論Ⅲ	臨床工学技士として必要な全ての領域を復習し、医療人として活躍するための実践的な知識と技術を身につける。	3後	60	2		○		○		○		
83	○		国際教育	日本と海外の医療情勢や文化・民族性などの相違点を学ぶことで、日本人としてのIdentityの確立と国際的な幅広い視野・思考を身につける。	2通	15	1	△	○		○		○		
84	○		ME2種講座	電気工学、電子工学で学んだ知識を整理しつつ過去問題に取り組むことで、電気工学分野の復習だけでなく、医学と工学とを関連づけた知識として身につける。	2前	30	2	△	○		○		○		
合計					84 科目	3180 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 本校所定の課程を修了し、出席日数をみだし、試験に合格すること。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 当該年度の科目を全て履修していなければならない。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。